

5)河川・水辺

本町の水系は、阿久比川をはじめ、7本の2級河川と町管理の準用河川などがあり、これらは阿久比川水系・十ヶ川水系を形成しています。

また、知多半島全体にみられる農業ため池は、本町においても数多く点在しています。

■水面・河川・水路

水面・河川・水路			
計	水面	河川	水路
163ha	30ha	58ha	75ha

※「水面」は、湖沼(人造湖及び天然湖沼)並びにため池の面積である。

「河川」は、一級河川、二級河川及び準用河川の河川区域面積である。

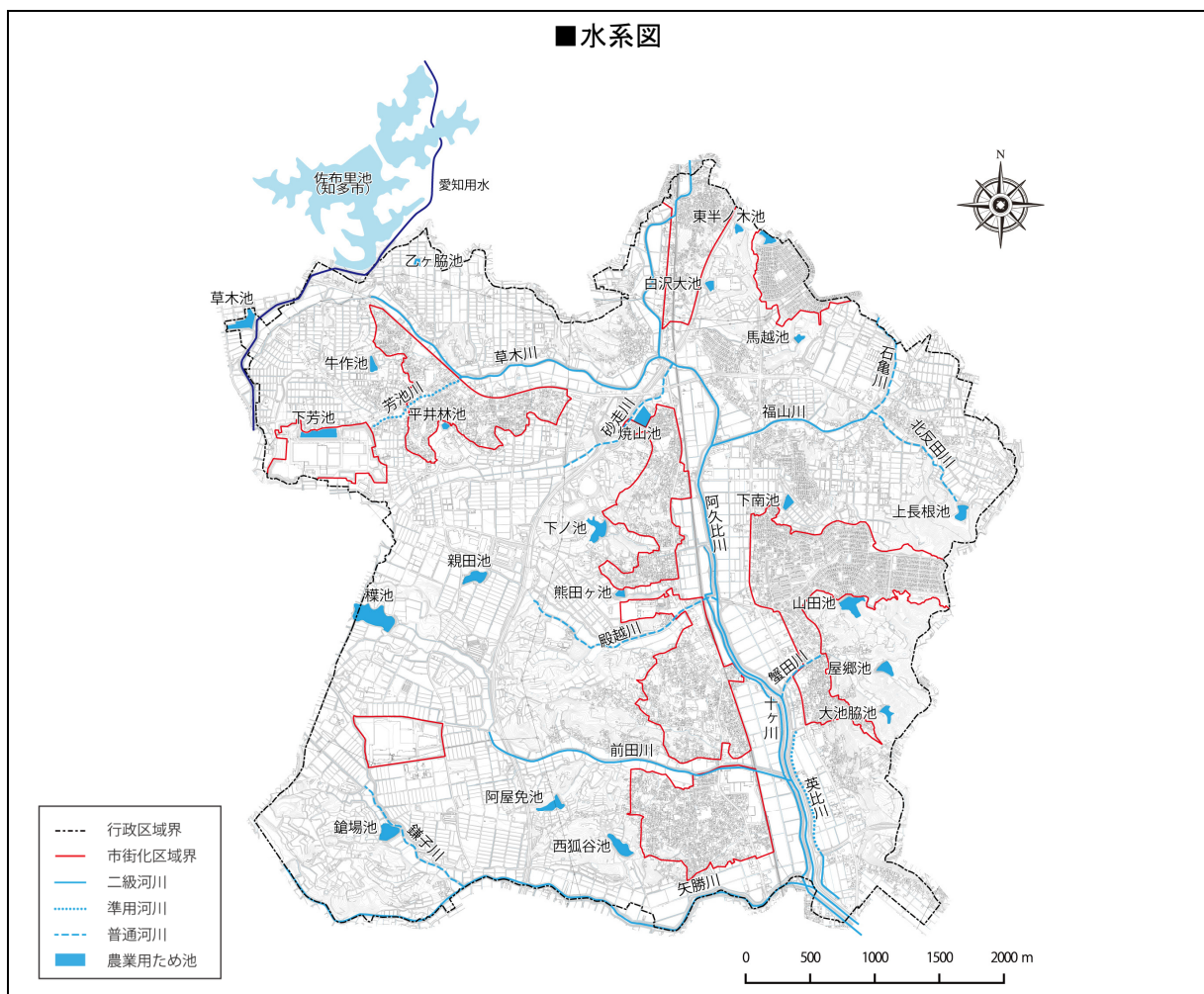
「水路」は農業用の用排水路である。

出典:平成30年版「土地に関する統計年報」

■ため池数(平成29年(2017年)4月現在)

	受益面積 1ha 以上	受益面積 1ha 未満	計
知多半島	410	603	1,013
阿久比町	20	59	79

出典:愛知県HP-知多農林水産事務所-知多半島のため池



6)良好な自然特性

本町における土地自然特性の現況は以下のとおりです。

①良好な植物群落

- ・良好な植物群落は、植大西や植大南・町東部の丘陵地や神社周辺のシイ、コナラ、ヤマモモ、クロマツ、アカマツなどが挙げられます。

②野生生物生息地

- ・カモなどの水鳥やヒヨドリなどの陸鳥、ホタル、ハッチョウトンボなどみられる阿久比川や池、湿地周辺があげられます。
- ・また、本町では自然との共存をめざし「ホタル飛び交う住みよい環境づくり」を積極的に推進しており、ホタルの分布調査、生態研究が行われ、町の多くの場所でホタルをみることが出来ます。

③良好な水辺地

- ・板山高根湿地や草木池周辺の湿地などがみられます。
- ・板山高根湿地は、本町の東部の丘陵地に位置し、面積は11,560㎡ほどです。昭和40年代には、果樹園や耕作地として利用されていましたが、数年後には休耕地になりました。そして貧栄養の土壌や南側斜面と地下からの湧き水が弱酸性という特有の水質となり、モウセンゴケやシラタマホシクサなどの湿地性の植物が生育するようになりました。また、周辺には多種の昆虫、鳥や動物が生息しています。
- ・また、本町に数あるため池は、良好な田園景観を構成し、カモなどの水鳥が飛来する良好な水辺となっています。

④伝統的・歴史的風土を代表する緑

- ・坂部城跡周辺に数多くの文化財を有する洞雲院があります。

⑤文化的意義を有する緑

- ・地域毎に旧村単位で祭礼が行われている神社の緑があります。

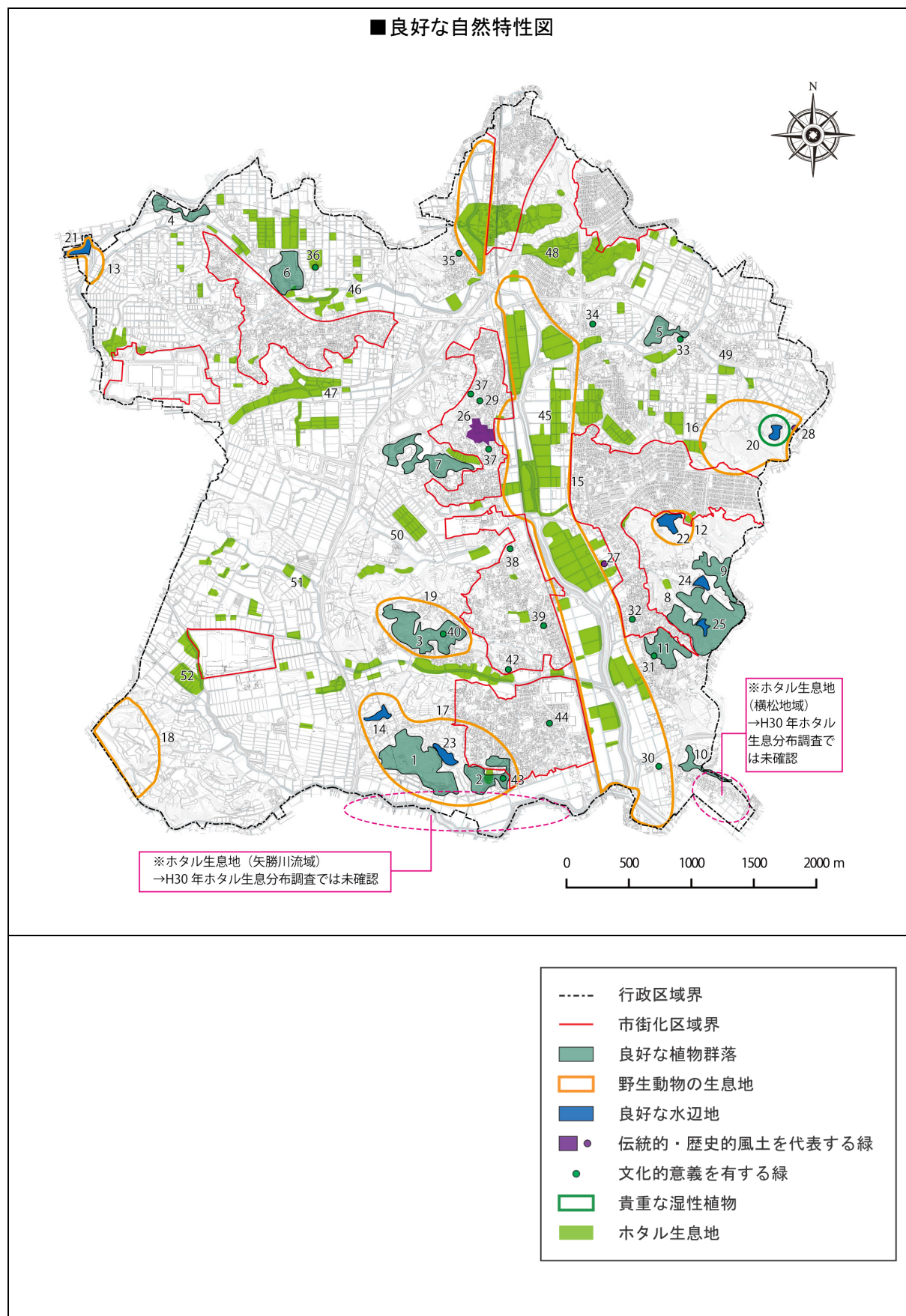
⑥ホタル生息地

- ・白沢地域・板山地域・横山地域や阿久比高校南の水田周辺があります。

■良好な自然特性調書

区分	No	名称	規模	概要
良好な植物 群落	1	植大西の丘陵地	10.69	シイ、コナラ、ヤマモモの多い林
	2	植大南の丘陵地	3.86	クロマツ、ウバメガシの多い林
	3	箭比神社周辺	7.20	スギ、シイの多い林、知多半島で珍しいコケイランが生息する
	4	多賀神社	1.71	シイの多い林
	5	熊野神社	2.13	シイの多い林
	6	秋葉神社周辺（草木）	4.35	シイの多い林
	7	秋葉神社南（卯坂）	5.50	クロマツの多い林
	8	町東部の丘陵地	9.96	アカマツの多い林
	9	屋郷池東	3.30	アラカシ、ヤマモモ、コナラ、モチノキの多い林
	10	清来寺周辺	1.67	クロマツの多い林
	11	大山祇神社	3.79	竹林にはヤブミョウガ、ウラシマソウ、カラタチバナ、リュウメンシダ、オニユリが群生する
野生動物 生息地	12	山田池	-	カモなどの水鳥が見られる
	13	草木池	-	カモなどの水鳥が見られる
	14	阿屋免池	-	カモなどの水鳥が見られる
	15	阿久比川流域	-	水鳥や陸鳥が見られ、周辺の水田、水路などにはホタルが生息している
	16	板山高根湿地周辺	-	ヒヨドリなどの陸鳥が多くみられ、湿地ではハッチョウトンボがみられる
	17	西弧谷池周辺	-	ヒヨドリなどの陸鳥が多く見られる
	18	半田池周辺	-	ヒヨドリなどの陸鳥が多く見られる
	19	箭比神社周辺	-	ヒヨドリなどの陸鳥が多く見られる
良好な 水辺地	20	板山高根湿地	0.72	モウセンゴケやシラタマホシクサなどの湿地性の植物が生息する
	21	草木池周辺の湿地	0.81	東側の土手の斜面と用水路の斜面に湿地が見られる
	22	山田池	0.96	珍しいマツカサススキが育成する
	23	西弧谷池	1.17	ヒシが覆うため池
	24	屋郷池	0.65	樹林と一体化した水辺地
	25	大池脇池	0.46	樹林と一体化した水辺地
歴史的・伝 統的風土を 代表する緑	26	坂部城跡	0.31	坂部城跡の周辺には多くの文化財を有する洞雲院がある
	27	二子塚古墳	0.11	阿久比町文化財
	28	板山長根古窯	0.02	町内唯一保全処理された古窯
	29	久松・松平家葬地	0.01	洞雲院の裏山にある
文化的意義 を有する緑	30	神明社	1.10	横松神明社例祭（横松地区祭礼）
	31	大山祇神社	0.24	大山祇神社例大祭（萩地区祭礼）
	32	熱田社	0.29	熱田社例大祭（宮津地区祭礼）
	33	熊野神社	0.32	巫女舞、お囃子、子供神楽
	34	縣神社（境）・津島神社	0.37	お囃子、子供神楽、津島まつり
	35	八幡社（境）・津島神社	0.20	巫女舞、お囃子、餅投げ、津島まつり
	36	八幡神社（境）・津島神社	0.52	巫女舞、お囃子、餅投げ、津島まつり
	37	八幡神社	0.12	巫女舞、お囃子、餅投げ
	38	津島神社	0.13	巫女舞、お囃子、津島まつり
	39	阿久比神社	0.17	お囃子、子供神楽、餅投げ
	40	八幡神社	-	巫女舞、お囃子、子供神楽
	41	箭比神社	2.28	子供山車、お囃子、子供神楽、餅投げ
	42	天満社	0.23	お囃子、子供神楽
	43	神明社	0.27	巫女舞、お囃子、餅投げ
	44	八幡社	0.17	大古根八幡社例大祭（大古根地区祭礼）
ホタル 生息地	45	阿久比川流域	67.4	
	46	草木川流域	19.7	
	47	砂走川流域	18.2	
	48	白沢地域	40.3	
	49	板山地域	18.5	
	50	阿久比高校南	9.70	
	51	前田川流域	19.0	
	52	鎌子川流域	6.50	

■良好な自然特性図



(2) 歴史的条件

本町には、国登録有形文化財が3、県指定文化財が6、町指定文化財が26あります。このうち、史跡・天然記念物は、県指定史跡が1、町指定史跡が3、町指定天然記念物が1あります。

■史跡・天然記念物

分 類		名 称	概 要
県指定文化財	史跡	板山長根古窯	昭和53年(1978年)に発掘調査された古窯で、分焰柱を持ち、平安時代末～鎌倉時代(12世紀後半)のものだと推測されます。 灰原部は滅失していますが、窯は当時のままで、分焰柱の天井部が残り、碗が窯に詰められた状態で保存されています。
	史跡	二子塚古墳	知多半島では唯一の前方後円墳で、阿久比川の沖積地に位置していることから、古墳時代中頃(5世紀)のものだと推測されます。 太平洋戦争時に、一部が畑として使用され、かなりの変形を受けました。阿久比の歴史を語るうえで重要な史跡です。
町指定文化財	史跡	坂部城跡	築城に関する資料は戦乱で残されていませんが、洞雲院を建立した久松定益の子の定義が築城したものと考えられています。定義の子の俊勝の妻である於大の方も約15年間この城で過ごしました。 天正5年(1577年)織田信長の家臣(佐久間信盛)の手勢により城は焼失しました。
	史跡	久松・松平家葬地	洞雲院の裏山の静かなたたずまいの中に、久松定益、定義、俊勝、於大の方、松平定綱の5基の墓があります。
	天然記念物	宮津熱田社の楠	樹齢は不明ですが、安永3年(1774年)に宮津熱田社が建て替えられた際、植樹されたといわれています。

出典:阿久比町教育委員会

<宮津熱田社の楠>



<二子塚古墳>



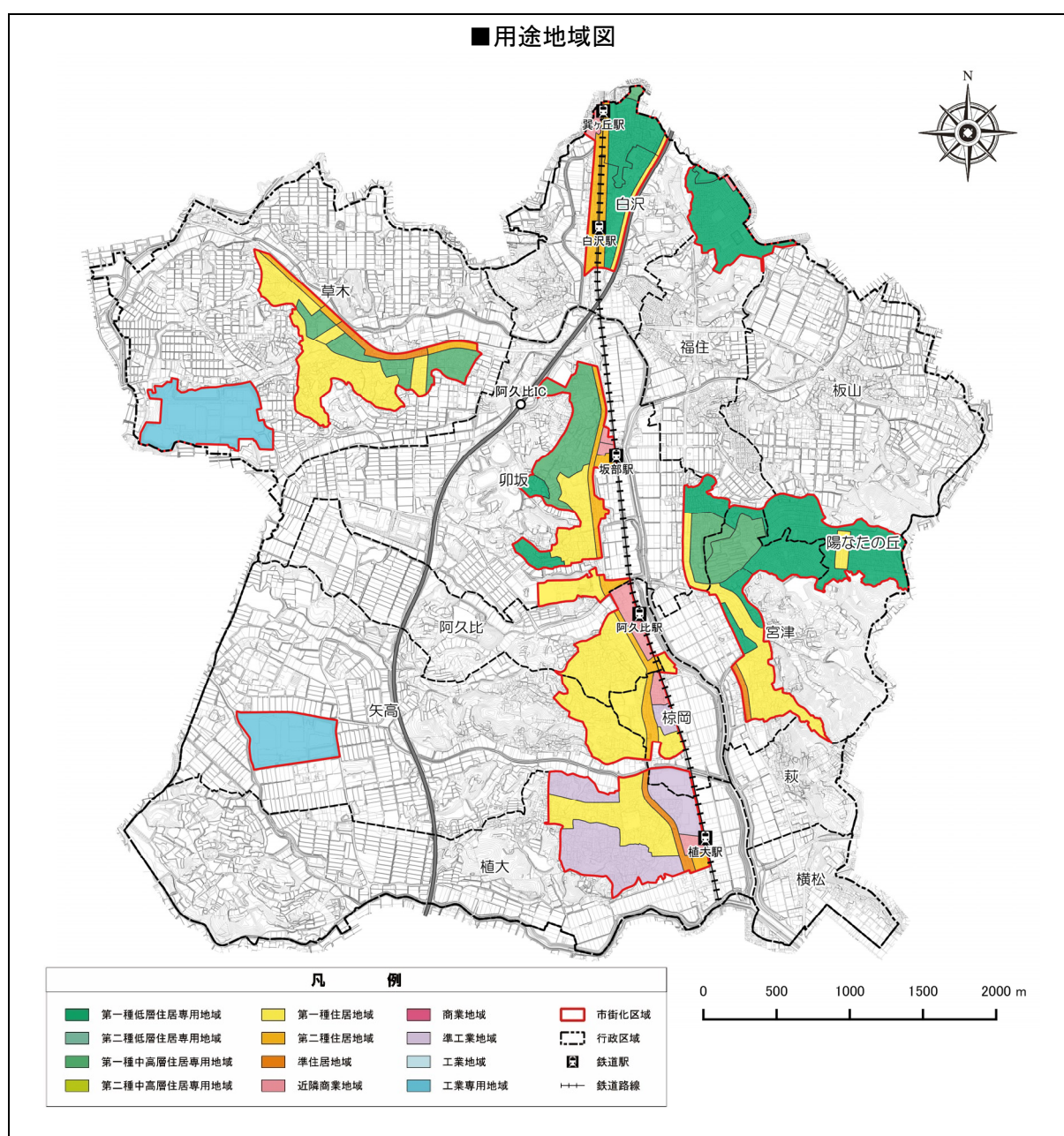
(3) 都市計画の区域区分

本町域 2,380ha のうち、全てが都市計画区域に指定されており、町域の 17.8%(424ha) が市街化区域となっています。市街化区域は、8つの用途地域が指定されています。

■行政区域及び市街化区域の規模(平成27年(2015年))

区分	面積	割合
都市計画区域	2,380ha	100.0%
市街化区域	424ha	17.8%
市街化調整区域	1,956ha	82.2%

出典：平成 28 年度愛知県都市計画基礎調査



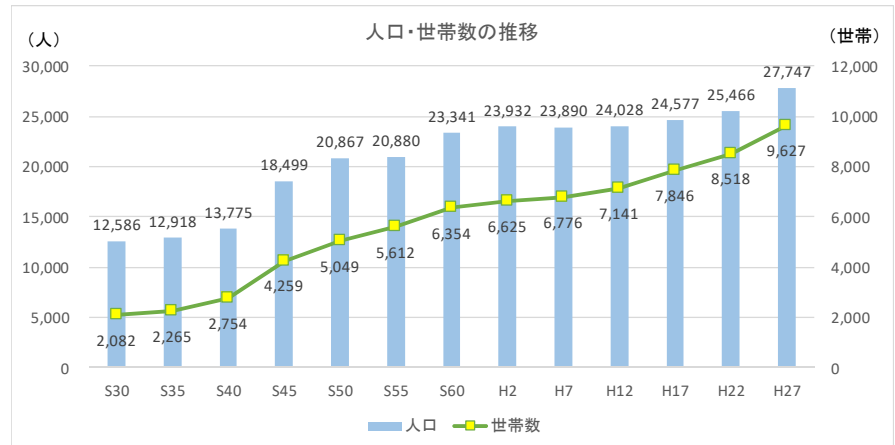
(4) 人口・世帯数

1) 人口・世帯数の動向

国勢調査によると平成 27 年（2015 年）現在の本町の総人口は 27,747 人、世帯数は 9,627 世帯となっています。

経年的な動向をみると、宮津団地（S43）など大規模団地開発の影響を受け、昭和 45 年（1970 年）以降大きな人口増加を示してきましたが、昭和 60 年（1985 年）以降は横ばいで推移してきました。

近年は、平成 20 年（2008 年）に名鉄阿久比駅が「特急」停車駅になったことや、平成 23 年（2011 年）の陽なたの丘の竣工などがあり、人口増加が進んでいます。



出典：国勢調査

2) 地区別人口の推移

本町の地区別人口の推移をみると、平成 15 年（2003 年）から平成 31 年（2019 年）にかけて、人口が増加している地区は 9 地区あり、阿久比駅東側の宮津地区や新設された陽なたの丘地区が大きく増加しています。

一方、昭和 43 年（1968 年）に開発された宮津団地や昭和 54 年（1979 年）に開発された高根台などの古くからの団地は人口減少となっています。

■地区別人口の推移（各年 4 月 1 日現在）

地域区分	地区名	H15	H31	H15-H31 増減率
東部	横松	333	289	▲ 44
	萩	339	311	▲ 28
	宮津	994	1,890	896
	宮津山田	1,003	910	▲ 93
	宮津団地	2,252	1,963	▲ 289
	陽なたの丘	0	3,017	3,017
英比	板山	980	871	▲ 109
	福住	828	801	▲ 27
	福住園高台	657	616	▲ 41
	白沢	1,876	2,191	315
	白沢台	650	640	▲ 10
	坂部	1,364	1,450	86
	卯之山	944	1,213	269
	高根台	1,754	1,424	▲ 330
	メイツ翼ヶ	274	254	▲ 20
草木	阿久比団地	466	407	▲ 59
	草木	3,524	3,737	213
南部	阿久比	1,052	1,107	55
	椋岡	699	643	▲ 56
	矢口	624	609	▲ 15
	高岡	424	373	▲ 51
	植	2,290	2,577	287
	大古根	1,073	1,453	380
合計		24,400	28,746	4,346

出典：町政概要ハンドブック 2019

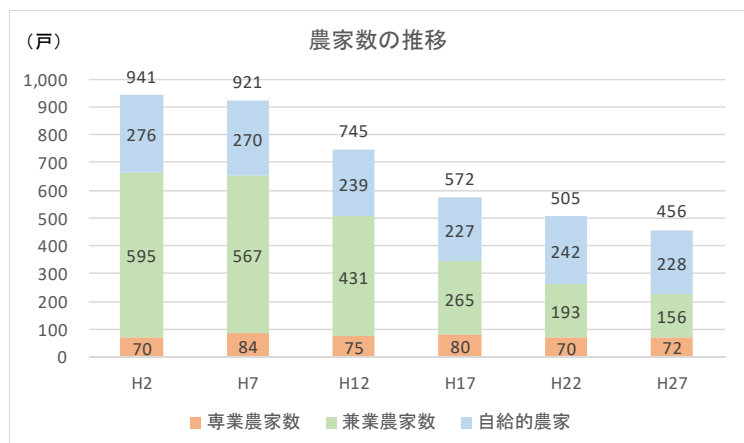
(5) 産業構造と動向

1) 農業

本町の農業は、温暖な気候と阿久比川流域の肥沃な水田に恵まれ、昭和 36 年(1961 年)の愛知用水の通水などもあって、本町は阿久比米の生産地として栄えてきました。

レンゲソウを肥料としたブランド米「れんげちゃん」が特産として有名です。

しかし、近年の農業を取り巻く環境は厳しく、平成 12 年(2000 年)から平成 27 年(2015 年)にかけて総農家数は約 6 割まで減少しています。これは、担い手農家への農地の集約が進んでいると考えられます。



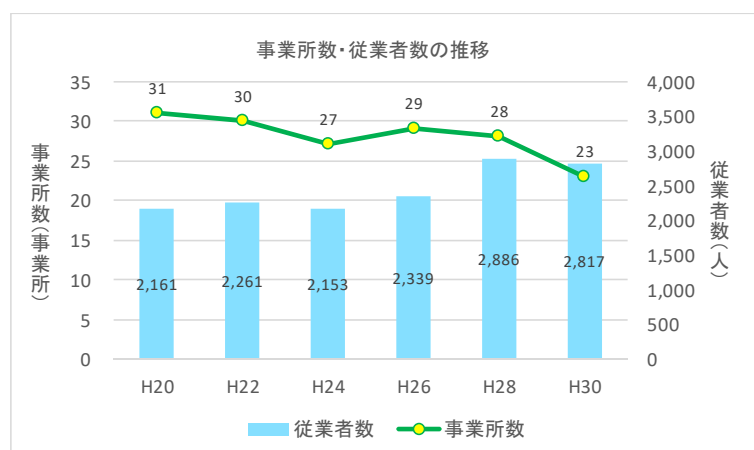
出典:世界農林業センサス

2) 工業

本町は、昭和初頭より、綿布業を基幹産業として発展してきましたが、産業構造の変化などにより次々と工場は閉鎖されました。平成に入ってから、阿久比西部地区において工業団地が整備され、先端産業が操業を開始するなど高付加価値産業への転換が進んでいます。

現在、阿久比町には、草木・草木東部・中部・南部工業団地の4ヵ所の工業団地があります。

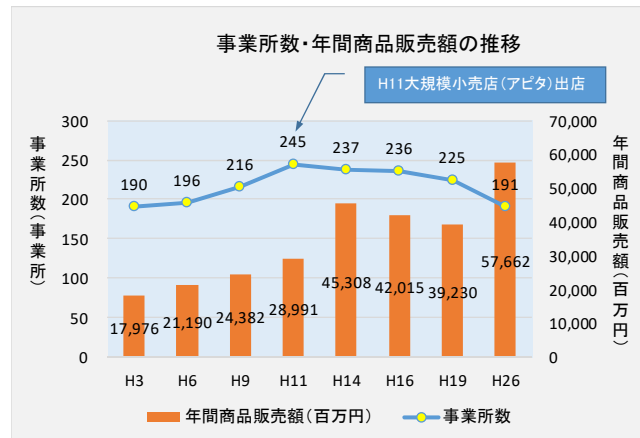
近年では、製造業の事業所数は減少しているものの、従業者数、製造品出荷額などは増加傾向にあります。平成 30 年(2018 年)現在の事業所数は繊維・食料品が多く、従業者数では、情報通信機械、生産用機械が多くなっています。



出典:工業統計

3)商業

本町の商業は、これまで名古屋市や半田市などへ購買力の流出が続いていましたが、平成11年（1999年）の大型ショッピングセンターが開店し、また、幹線道路沿いへの商店立地がすすみ、年間商品販売額は増加しています。

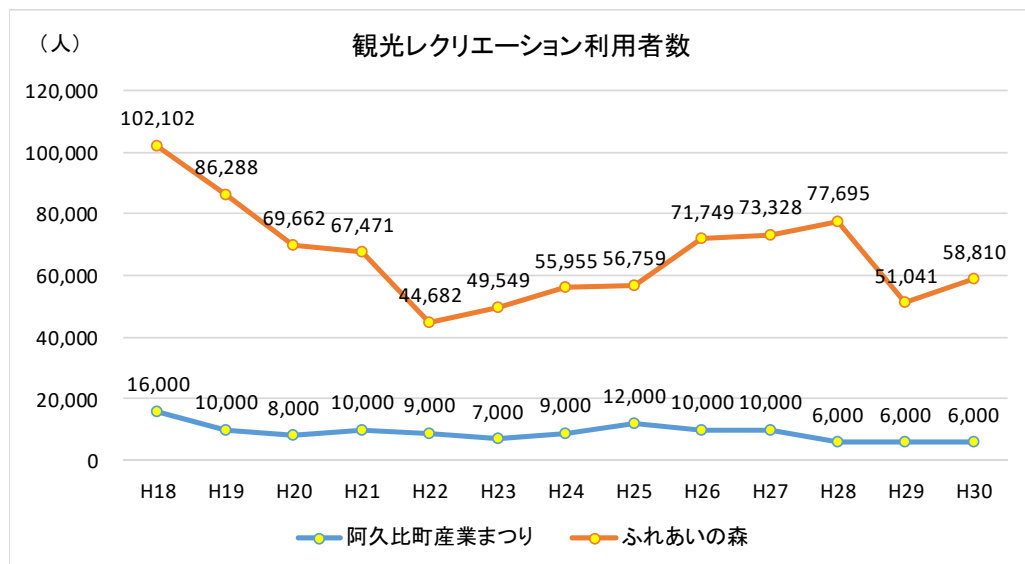


出典：商業統計

4)観光レクリエーション業

本町の観光としては、花かつみ園や板山高根湿地、箭比（やひ）神社の森などの花や自然の資源、坂部城跡や権現山などの歴史資源、ふれあいの森などレクリエーション資源などがあります。ふれあいの森の利用者数は平成29年（2017年）には約5万1千人まで減少しましたが、平成30年（2018年）には約5万9千人まで回復しています。

また、年中行事として、産業まつりや町内各地区で豊作を祈る春祭り（山車）が行われています。



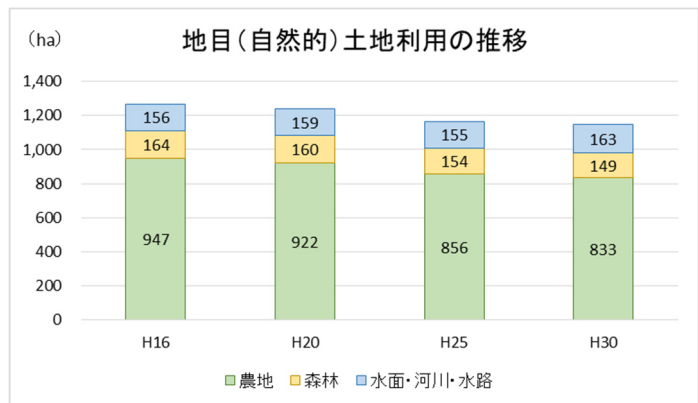
出典：愛知県観光レクリエーション利用者統計

(6) 土地利用の現況と動向

1) 町全体の土地利用状況

地目別土地利用のうち、農地、森林、水面・河川・水路をあわせた自然的な土地利用は、平成30年（2018年）現在、1,145haで町域全体の48.1%を占めています。

平成16年（2004年）から平成30年（2018年）の推移をみると、水面・河川・水路の面積が増加している一方、農地や森林の面積は減少しています。



■地目別土地利用面積(ha)

地目	H16	H20	H25	H30	H30 割合
農地	947	922	856	833	35.0%
森林	164	160	154	149	6.3%
原野等※1	0	0	0	0	0.0%
水面・河川・水路	156	159	155	163	6.8%
小計	1,267	1,241	1,165	1,145	48.1%
道路	324	334	273	320	13.4%
宅地	396	408	443	456	19.2%
その他	408	411	513	459	19.3%
合計	2,394	2,394	2,394	2,380※2	100.0%

※1 平成24年から、地目のうち「農用地」（「農地」及び「採草放牧地」の合計）、「採草放牧地」及び「原野」を廃止し、「原野等」を追加している。

※2 平成26年全国都道府県市区町村別面積調による。より高精度な電子国土基本図データを用いた計測方法の変更。

出典：平成30年度土地に関する統計年報

2) 土地所有調査

本町が有する公有地は、平成31年（2019年）3月31日現在、学校やスポーツ村、調整池などの行政財産が545,113.86㎡、その他の普通財産が41,005.80㎡あります。

■町有財産（土地）

区 分	決算年度末現在高(㎡)
行政財産	545,113.86
調整池	63,612.00
緑地	49,923.27
ふれあいの森	39,458.00
花かつみ園	2,358.09
スポーツ村	82,533.44
ホテルの里	1,473.00
普通財産	41,005.80

出典：町政概要ハンドブック 2019

(7) 交通体系

本町では、自動車専用道路である知多半島道路のほか、県道 7 路線・総延長 27,135m（平成 31 年（2019 年）4 月現在）が主要な幹線道路として利用されています。

特に、南北方向の名古屋半田線・阿久比半田線及び東西方向の西尾知多線は、住民の暮らしに密着した交通の軸を成していますが、西尾知多線の名古屋半田線との交差部では慢性的な渋滞が発生しています。

本町には鉄道駅が 4 駅（白沢、坂部、阿久比、植大）存在し、このうち阿久比駅に特急が停車します。また、知多市と本町との境付近に快速急行が停車する巽ヶ丘駅があります。

本町を南北に縦断する名鉄河和線とその東側に広がる阿久比川、田園地帯は、本町の軸となる景観を形成しています。

